由利本荘市立由利中学校 校報　　「チーム由利中　心ひとつに」

根堀台だより

平成28年7月5日
第 28 号

校 訓「 進 歩（文 ）」「 健 康（武 ）」「 協 力（道 ）」

期末テストを終え 夏休みに向かって

期末テストも終わり、夏休みまで後３週間を切りました。今週と来週は県教委関係の「学校訪問」が３回あります。また、ＰＴＡ授業参観もあったりして子どもたちは沢山「授業参観」される機会が続きます。期末テストが終わったからといって、ダラダラしている暇はありません。１学期終了のこの時期だからこそ、きちんとして生活をして、夏休みへと入っていきたいものです。

期末テストの採点も終わり、先生方はいよいよ通知表に取りかかることになります。１学期の評価など、「１学期の仕上げ」の時期を迎えました。しかし、「評価」といえばどうしても「生徒の学習成績」のことと考えがちですが、学習指導だけでなく、生徒指導、学級経営、学年経営など、教師の活動も含めて、今学期の目標がどの程度まで実現できているかを評価する必要があります。「生徒の成績」は「教師の成績」だからです。

子どもたち一人一人の今学期の「育ち」を確認して、十分に達成できたこと、逆に計画通りにいかなかったことなどを確認する必要があります。だから「通知表」が配布され、「三者面談」が実施されるのです。

節目節目に子ども一人一人を評価して、仕上げの状態を確認し、「できるようになったこと」や「頑張ったこと」を認め、「残念ながら達成できなかったこと」や「もう少し頑張ってほしいこと」などを確認し、そのための「よい方策」について、子どもたち一人一人に分かるように説明し、モチベーションを高めて夏休みに入らせたい・・・そんな思いや願いを「通知表」や「三者面談」に込めて取り組むように先生方にお願いをしました。

「評価」はどうしても「足りない部分」に目がいきがちです。また、本当は頑張ったのだけれど結果までつながらないこともあります。夏休み前の「評価の時期」だからこそ、子どもの「よさを認め、やる気にさせる」「頑張ってよかったと思える」・・・教師も、保護者も子どもにとって「魔法の言葉」になるような「言葉かけ」を心がけたいものだと思います。

「評価を子どもに返す」際の「返し方」が大切です。１学期の頑張りを、夏休み中家庭でも継続させて、２学期によい「スタートダッシュ」ができるようよろしくお願いします。

学校給食施設衛生管理訪問

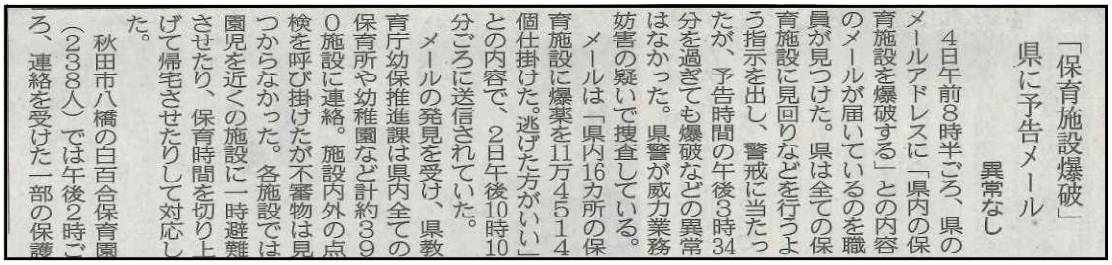
７月４日（月）、「平成２８年度秋田県学校給食施設衛生管理訪問」がありました。この事業は学校給食の「調理場」に衛生管理などの専門家チームを派遣し「施設設備、調理過程、必要諸帳簿などについての衛生管理」、「食物アレルギー対応」、「異物混入等学校給食全般の留意点など」について関係者に指導助言を行うものです。

午前中に「調理場視察」を行い、午後からは「研究協議会」をもちました。当日、指導に当たられた栄養教諭の〇〇〇〇〇先生・〇〇〇〇先生からは、「２時間以内で調理を済ませて毎日温かい給食を食べられることはすばらしいこと」「冷蔵庫がランチルームに直接設置されていて、食べるギリギリまで保冷できることは安全性が高い」など、お褒めの言葉を頂きました。

由利小学校の栄養教諭の先生が「由利中」「東由利中」「東由利小」の３校を兼務している関係もあって、本校では〇〇〇〇〇養護教諭が「食材の発注」や「アレルギー対応」も含め毎日「給食の仕事」に大変大きく関わってくれています。

３人の調理員さんだけでなく、担当者は勿論、学校全体で関わりながら、由利中学校の給食がこれからも「安全で安心」なものであるように、今回の訪問で学んだことを生かしていきたいと思います。

不審メールへの対応



「保育施設爆破」
県に予告メール
異常なし

4日午前8時半ごろ、県のメールアドレスに「県内の保育施設を爆破する」との内容のメールが届いているのを職員が見つけた。県は全ての保育施設に見回りなどを行うよう指示を出し、警戒に当たったが、予告時間の午後3時34分を過ぎても爆破などの異常はなかった。県警が威力業務妨害の疑いで捜査している。

メールは「県内16カ所の保育施設に爆薬を11万4514個仕掛けた。逃げた方がいい」との内容で、2日午後10時10分ごろに送信されていた。

メールの発見を受け、県教育庁幼保推進課は県内全ての保育所や幼稚園など計390施設に連絡。施設内外の点検を呼び掛けたが不審物は見つからなかった。各施設では園児を近くの施設に一時避難させたり、保育時間を切り上げて帰宅させたりして対応した。

秋田市八橋の白百合保育園（238人）では午後2時ごろ、連絡を受けた一部の保護者が園児を迎えに来たほか、職員が園児をバスに乗せて八橋小学校体育館に一時避難させた。石田義成園長は「ふざけ半分かもしれないがやめてほしい。子どもたちが動揺しないか心配だ」と話した。

市内のある認定こども園では、園内に残っていた1、2歳児ら園児37人と職員約20人が午後3時15分から4時までバスに乗って園を離れ、市内を回った。

左記の記事にあるように７月４日不審なメールが県に届きました。

これを受けて教育委員会から学校内外の「不審物」の確認を行うよう指示がありました。

丁度給食前であったので、先に「ランチルーム」の安全確認を行ってから、生徒全員を入室させて給食を食べさせました。その間、女子職員に生徒の指導をお願いし、男子職員全員で、教室や特別教室、トイレ、ゴミ箱やロッカーの内部、体育館、下足棚などの校内巡視、さらには部室や植栽の中、駐車場、小体育館などの校外巡視を行いましたが、不審物は見当たりませんでした。速やかに適切な対応ができたと思います。

幸い予告のあった県内の関係機関、各小中学校などでも被害がなく、一安心しました。生徒には、動揺させないために情報を流さないで対応しました。ニュースや新聞で初めて知った生徒、この校報を通して知った生徒もいたと思います。安全面を十分配慮してのことと御理解下さい。

最近このような「不審メール」が頻繁に報道されるようになりましたが、「まさかここでもか」と驚いています。今後このようなことが無いよう願っていますが、万が一同様な事案が発生した場合は、教育委員会など関係機関と連絡を図りながら「安全で安心な対応」をしていきたいと思います。保護者の皆様の御理解とご協力をこれからもよろしくお願いします。